



スイカ割りをした子どもたちから笑顔がこぼれる。

急ぎよ予定を変更し、翌日三線を買いに。結果、皆さんに喜んでいただけました。一方ビーチでのアクティビティについては、スタッフは内心、とても心配していました。震災の記憶で、本当は海への恐怖心が消えていないのではないかと……。この旅で、少しでも海に対するトラウマや恐怖心を克服してほしい、と強く願いました。

すると、後日ご家族の方から、「あれほど怖がっていた海に、今では泳ぎに連れて行つてと言われます」という嬉しいお言葉をいただきました。また、お子さま手作りの写真立てや手紙、似顔絵など、同行スタッフとの深い絆が感じられるプレゼントが届くサプライズも。旅を終えたスタッフは「喜んでくださるからこそ笑顔の贈り物プロジェクトは必要だと思う。熱い思いをもった社員がいるJALグループで、JALグループにしかできないおもてなしをこれからも続けたい」と考えています。

JAL 東北応援プロジェクト 子どもたちの笑顔と 未来のための取り組みを継続中



東日本大震災から5年半が過ぎました。これまでJALグループでは被災地を支援するため、さまざまな取り組みを立ち上げ、行ってきました。今回はそのなかの「JAL 笑顔の贈り物プロジェクト」と「SKY BATON」の活動をご紹介します。



参加者の皆さんと空港スタッフが笑顔で記念撮影。



沖縄の海を満喫。忘れられない思い出に。

このプロジェクトは、被災地の皆さんに寄り添い、笑顔になっていただくことが目的ですが、逆に参加者の皆さんの笑顔からパワーや元気をいただいています。この旅で生まれた笑顔が東北の皆さまの活力となり、これからの未来へ繋がっていくことを願って、今後も継続してまいります。

SKY BATON

一方、被災地では「震災の風化」「ボランティアの大幅な減少」「復興の停滞」という状況が顕著になるなか、今後を見据えた「継続的な支援」が求められています。この状況に 대응して、JALグループは、社会人が若者にバトンを託し、次世代育成と被災地支援の両面に取り組む企画「SKY

JAL 笑顔の贈り物 プロジェクト

JAL 東北応援プロジェクト「行こう! 東北へ」は、2013年6月より東日本大震災における「地元の復興」と「被災された方々の心の応援」の2つの側面から、さまざまな取り組みを行っています。そして後者の取り組みの一つが「JAL 笑顔の贈り物プロジェクト」です。

2013年7月よりスタートしたこのプログラムは、震災で親御さんを亡くされたお子さまとその保護者の方を夏休み期間に沖縄旅行にご招待。旅という非日常の環境のなかで笑顔を取り戻して、前を向いて進んでいくきっかけをプレゼントするものです。

このプログラムを実施するためのご招待にかかる費用は、社員の募金と会社からの同額拠出（マッチング）で賄われます。また旅に同行するボランティアは、東北への熱い思いをもった社員からの公募で決定しています。

4回目となる2016年は、7月に宮城県より7家族21名さま、岩手県より2家族5名さまが参加されました。幸いお天気に恵まれ、眩しい太陽の日差しのおかげで、4日間の沖縄旅行がスタートしました。

まず先発隊として、岩手県チームが7月23日に出発しました。同行スタッフ3名で2家族に思い切り楽しんでもいただけるよう考えたコンセプトは「そ



初めての三線に、苦戦しながらもチャレンジ。

これまでやるか」をどこまでやるか!」というものです。いよいよ当日を迎え、同行スタッフとご家族のご対面。保護者の方から事前に伺っていたお話では、「当日空港に行ったら『やっぱり帰りたい』なんて子どもがぐずるんじゃないか」と心配されている様子もあり、緊張の瞬間でした。まずスタッフが自己紹介をするものの、子どもたちは恥ずかしがって顔を隠したり、保護者の方の後ろに隠れたり……。このときスタッフは「4日後には必ず笑顔で帰ってくるぞ!」と心に誓いました。そして、飛行機を乗り継ぎ、いよいよ沖縄に到着。すると、沖縄の空港スタッフらのお出迎えと花火のプレゼントに子どもたちは大喜びです。数時間前の緊張はどこかに吹っ飛んでいました。

滞在中は美ら海水族館の観賞やビーチでのマリンスポーツ、花火に三線教室、航空教室など夏らしいイベントを存分に満喫。なかでも、三線教室は好評で、三線が欲しいという声が上がりました。行程にはありませんでしたが、前述のコンセプトを思い出し、深夜に

BATON」を立ち上げました。第3弾となる今年は、昨年に引き続き、公益社団法人「チャンス・フォー・チルドレン」(以下、CFC)の活動を支援してまいりました。

東日本大震災は、家庭の経済状況に深刻な影響を及ぼし、その結果、被災地では多くの子どもたちが、将来の夢のために学ぶ機会を得られなくなりました。それは、子どもたちが夢を諦め、将来への希望を失うことにも繋がりがかねません。CFCは、震災によって経済的困難を抱えた子どもたちに、塾や習い事などで利用できる「教育クーポン」を給付することで、子どもたちが未来の展望を描き、夢に向かって学ぶ環境を提供しています。

今年のチャリティ・マイルでは、JMB会員1138名さまから495万9000マイルのご寄付をいただき、JALからの同額拠出を合わせ、合計33名の子どもたち(小学生・15名、中学生・8名、高校生・10名)(地域別:岩手県4名、宮城県23名、福島県



報告会は和やかに行われた。仙台空港内では子どもたちが好奇心たっぷりに目を輝かせて、あちこちを見学。

6名)にJAL/CFC「学校外教育クーポン」を贈ることができました。また、8月20日には、このクーポンを利用する子どもたちを仙台空港に招いて、「JAL×CFC報告会」と「仙台空港見学ツアー」を開催しました。

報告会では、JAL東北支店長から子どもたちへの激励のメッセージが。子どもたちからは、「クーポンをもらって、応援してくださっている方々の気持ちを感じ、励みとなりました」との感謝の思いが伝えられました。

報告会後は、仙台空港の見学や、現役のパイロットやキャビンアテンダントによるお仕事講座を実施。「飛行機大好き!」「将来パイロットになりたい」など、子どもたちは興奮した様子で、空港の舞台裏を興味深く眺め、真剣なまなざしで話に聞き入っていました。

JALはこれからも「JAL 笑顔の贈り物プロジェクト」や「SKY BATON」などをはじめ、さまざまな形で東北支援を続けてまいります。